

2016.3 No. 33



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

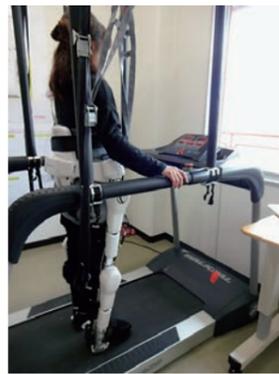
病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

ロボットスーツHAL®を用いたりハビリが平成28年度から保険収載!



リハビリテーション科
診療教授 浅見 豊子

筋肉を動かす際には、脳から運動ニューロンを介して筋肉へ筋電信号が伝達されます。ロボットスーツHAL®は、その信号を皮膚表面のセンサーで読み取り、モーター駆動により、装着者の股関節・膝関節の屈曲・伸展の随意運動を補助・拡大して、身体機能の改善を図るロボットです(写真)。医療用モデルHAL-HN01が、平成27年11月25日に装着型医療ロボットとしては初めて医療機器の製造販売承認を取得し、平成28年4月に保険収載されることになりました。適応疾患は今のところ、①脊髄性筋萎縮症(SMA)、②球脊髄性筋萎縮症(SBMA)、③筋萎縮性側索硬化症(ALS)、④シャルコー・マリイ・トゥース病(CM

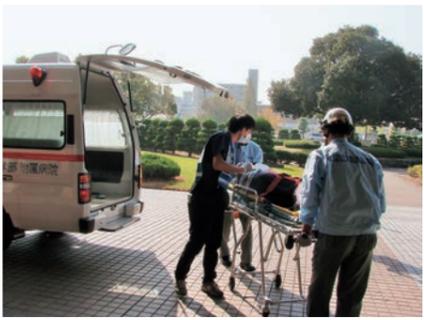


▲ロボットスーツHAL®(下肢に装置)を用いた歩行訓練の様子

T)、⑤遠位型ミオパチー、⑥封人体筋炎(IBM)、⑦先天性ミオパチー、⑧筋ジストロフィーの8疾患であり、本院でも筋萎縮性側索硬化症(ALS)の入院患者さんを中心に、保険適応疾患に対するHALを用いたりハビリテーションを行っていききたいと思えます。

多数傷病者発生を想定した災害訓練の実施について

災害対策室長
山下 秀一



▲災害訓練の様子

災害拠点病院である佐賀大学医学部附属病院は、万一の災害で多数の傷病者が発生した際にその責任を十分に果たすべく、3年前から机上訓練と実動訓練を毎年1回ずつ行ってきました。机上訓練は本学教職員を中心に、実動訓練は本学教職員に加え、模擬患者として本学の学生や研修医、さらには佐賀広域消防局の方々など多くの参加者のご協力をいただいております。昨年度までは本院の被災は想定せず、病院機能に問題のない状態で多数の傷病者を受け入れる訓練を行いました。外傷患者のメーキャップも真に迫るもので、臨場感のある訓練が実施されました。佐賀広域消防局の救急隊の皆さんのトリアージに始まり、重症度別に診療していく訓練は、当初こそ戸惑いも見られましたが、回数を重ねるごとにその質は著しい向上を見



▲災害訓練の様子

せています。第4回目の今回は、地震により本院も被災し、電子カルテが利用できない状況を想定しての訓練でした。このため情報が交錯する場面もありましたが、より臨場感のある質の高い訓練になりました。当初連絡が本部長に集中したことなど幾つかの問題点が出たことは、今後の災害救急を改善するためにはかえって有効であったと考えています。来年度もさらに工夫を重ね、より質の高い訓練を実施いたします。訓練の内容を改善することも大切ですが、本院の職員がもれなくこの訓練に参加し、多数傷病者発生時の救急医療に戸惑うことなく従事できるようにすることが大切です。佐賀県の基幹災害拠点病院としての責任を果たし、少しでも多くの被災者の救命に寄与するために、努力してまいります。

臨床心理士の活動について



精神神経科 病院助教
臨床心理士 松島 淳

前号において医学部における臨床心理士の活動を堀川悦夫教授(地域医療科学教育研究センター)のご紹介に続き、本号でも臨床心理士の活動について紹介させていただけることを心より感謝いたします。

病気を抱えると誰しもが何らかの「喪失」を体験することになります。健康な自己像を失うのはもちろんのこと、何らかの身体的機能や社会的役割、あるいは将来の夢までを失うことになる方も決して少なくありません。それが足元から揺らぐことになり、がん、慢性痛、糖尿病、心不全、神経難病といったチーム医療を求められる領域においても、

様々な患者さんやご家族の心の揺らぎに触れ、それでもなお続いていく人生を心理面から支えていくことを仕事にしています。ここ数年ではNICU、外来化学療法室、ECUといった様々な部署から個別に相談を受けることも増えており、心理士に対する期待やニーズの大きさを実感しているところでもあります。その一方で、せっかくな相談してもらえても十分にお役に立てていないことがあるかも知れません。患者さんやご家族、さらにはスタッフの皆さんに「心理士って役に立つよね」と言ってもらえるように、さらに頑張っていきたいと思っております。今後とも活用いただくと幸いです。

就任挨拶



地域医療科学教育研究センター
教授 川口 淳

平成28年1月1日付で就任しました。私の専門分野は生物統計学です。この分野は新しく開発された治療法や検査法を世に出すために、データを基に客観的な評価をする際に活躍します。「新しい治療法は20%の人たちに有効です。」とだけ聞いたときに、人によって様々なとらえ方があるかも知れません。実際に得られた数値から偏りなく適切な判断ができるようにするための科学的な方法を数学によって探求していきます。

近年では、測定法の発展により遺伝情報や脳機能などのこれまで目に見えなかった側面がデータとして得られるようになってい

反面、その膨大な容量により既存の方法では解析において困難に直面する場合があります。このようなデータから医療に役立つような新たな知見を得るための新規解析法の開発にも取り組んでいます。

私たちが解析対象とするデータは患者さんの貴重な協力に基づいたものが多く、大切に扱い、そして有効活用するために精進してまいります。佐賀大学における臨床・基礎研究や臨床試験の中で統計学を通じて医療のさらなる発展に貢献していきます。何卒よろしく申し上げます。



生体構造機能学講座
教授 城戸 瑞穂

平成28年2月1日付で生体構造機能学講座組織・神経解剖学分野の教授に就任いたしました城戸瑞穂です。

私たちの身体は、細胞の集まりが組織となり、臓器などの器官が形作られ、その場に相応しい役割を果たしています。各器官が特有の機能を発揮するのに実には驚かされます。形に差が出た結果、機能が損なわれ疾病にも繋がっています。「形をみる」として「形の差を見抜く」ことは、診断や治療をする上で重要な力です。組織学・解剖学という学問領域を通して、肉眼からサブリミクロン(1ミリの1000分の1)までの幅広い大きさの形の差をしっかりと「みる」ことができる人

材を育成することを私の命題と考えています。近年、医療人材の確保も現場の課題です。私は九州大学病院にてフルタイムの勤務が困難な医師・歯科医師の復職支援プロジェクトに関わってまいりました。出産や育児・介護・自身の病气などとバランスを取り、一時的な非常勤の勤務を経てフルタイムへと復帰し、活き活きと活躍するようになった顔を見るのは楽しく、支援しているのは私たちが励まされてきました。そうした経験を活かして、若い人たちのキャリア形成に力添えできれば幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

ロボットスーツHAL®を用いたりハビリが平成28年度から保険収載! 浅見 豊子

臨床心理士の活動について 松島 淳

多数傷病者発生を想定した災害訓練の実施について 山下 秀一

就任挨拶 城戸 瑞穂

就任挨拶 城戸 瑞穂

診療科紹介 小児科



診療科長

松尾 宗明

佐賀大学医学部附属病院小児科では、神経、循環器、血液・腫瘍、腎臓、アレルギー・呼吸器、感染・免疫、新生児、消化器・肝臓などの各専門分野の医師たちが協力して、患者さんとそのご家族のために最先端の知識に基づいた最善の医療を提供するよう努めております。小児科医は子どもの総合診療であり、その専門領域以外においても一定レベルの診療能力が求められます。われわれ小児科の特長は、スタッフ間での連携、チームワークの良さだと思えます。自由なディスカッションの上に、それぞれが子ども達とご家族に寄り添いながら、包括的・全人的な診療を行うよう心掛けています。

小児脳神経外科や小児泌尿器科、形成外科をはじめとした他診療科との連携にも力を入れていて、今後「こどもセンター」として更なる連携強化を目指していく予定です。

病棟保育士、院内学級、ボランティアによる月に1回のマジックショーなど入院中の子どもたちやご家族の支援を行っており、ファミリーハウスなど新たな支援に向けても活動しています。

発達障害や虐待、在宅医療などの問題に対しても教育や行政機関と連携しながら積極的に取り組んでおります。平成28年度からは将来の胃がんの撲滅に向けて、佐賀県内の中学生を対象にピロリ菌検診をスタートさせるなど予防医学の分野でも新たなシステムづくりを始めました。

また、急性脳症に対するデキストロメトルフアン療法、ニーマンピック病C型に対するシクロデキストリン療法など新たな治療法の開発や川崎病、もやもや病、非典型性溶血性尿毒症候群など病気の病態解明のための研究にも取り組んでおり、成果を世界に向けて発信すべく、スタッフ一丸となって、診療・研究・教育活動を行っております。



▲小児科のスタッフ

もやもや病、非典型性溶血性尿毒症候群など病気の病態解明のための研究にも取り組んでおり、成果を世界に向けて発信すべく、スタッフ一丸となって、診療・研究・教育活動を行っております。

佐賀大学医学部附属病院 連携病院長会議

平成27年10月24日(土)

に、ホテルグランデはがくれにおいて、佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議を開催しました。

本会議の目的は、より良い地域連携を構築していくために、各病院の理事長・病院長の先生方にご出席いただき、討議を行うことでもあります。今回の参加人数は、連携各病院・医院から50名、本院から58名、合計108名でした。

会議は、まず、本院の森田病院長の挨拶で始まり、次いで地域医療連携室長である私から、本院の地域医療連携室の活動状況についての報告と、新しく立ち上がった在宅医療支援部



▲病院長の挨拶

門を紹介し、続いて本院先進総合機能回復センターの浅見診療教授から、平成29年度から始まる「新専門医制度」についての報告がありました。

また、本院一般・消化器外科の井手助教による「胃癌に対する先進医療（ロボット支援胃切除術）」と題したプレゼンテーションも行われ、懇談時にはご出席いただいた連携病院の先生方から、本院への要望やご意見など貴重なお話を拝聴することができました。

最後は、嬉野医療センターの院長であります河部庸次郎先生のご挨拶で閉会しました。



▲地域医療連携室の活動報告

地域医療連携室長

野出 孝一



連携病院紹介

医療法人社団高邦会 高木病院

病院長 岩坂 剛

【病院の紹介】

「国際医療福祉大学・高邦会グループ」の柱である高木病院は、佐賀市内から車で約30分の県境、福岡県大川市に位置します。「生命の尊厳、生命の平等」を理念の一つに掲げ、地域医療の充実と発展に努めてまいりました。地域医療の最前線を担う急性期型の病院であり、救急医療、ICU、HCUから慢性期・障害者病棟、在宅医療、予防医学に至るまで、専門性に基づく質の高い医療を皆さまに提供することを目指してまいりました。

現在、44診療科が機能しており、病床数は506床。国際医療福祉大学・大学院の臨床研究センターとしての役割も担うため、最新の医療機器・設備を整備し、指導者として各分野の第一人者をそろえております。昨年からは、強度変調放射線治療装置も運用開始。臨床微生物・遺伝子検査研究センターも開設し、様々な症状、疾患に対して速やかに対応できる体制を心掛けております。

【本院との連携】

常勤医102名のうち、佐賀大学医学部の医局出身指導医、上級医が内科系（呼吸器・循環器・内分泌・腎臓・肝臓・神経等）、外科系、産婦人科、眼科、予防医学等で在籍するほか、約15名の研修医の指導に当たり、佐賀大学医学部出身の研修医も多数受け入れてまいりました。当院が実施する健康講座や特別講演会等でも講師を派遣いただくなど、日頃から地域医療連携、臨床教育ネットワークにご協力をいただきます。

今後とも、ご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



ボランティアの募集

佐賀大学医学部附属病院でボランティアをしてみませんか？
当院では、よりよい患者サービスを目指し、ボランティアを募集しています。ボランティアの特別な資格や経験は問いません。思いやりのある多くの皆様の参加を期待しています。

◆問合せ先
・経営管理課企画担当 電話 0952-34-3107
E-mail : keieikik@mail.admin.saga-u.ac.jp
※ 詳細は「ボランティアのしおり」にご案内しています。
1階受付窓口へお気軽にお申し付けください。

平成27年度 病院長賞

平成27年度は、慢性疾患看護専門看護師として診療に貢献した左記の職員を表彰いたしました。



慢性疾患看護専門看護師
看護部 看護管理室
永渕 美樹

平成27年度 文化コーナー

たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品を紹介します。また、病院ホームページや外来ロビーに全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

文化コーナー担当 南里 悠介



俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下みね子・万沙羅（選）

- 東雲の 瑞光清し 年 新
- 野菊を 揺らす風あり 通院日
- 忘れては 思ひ出しては 原爆忌
- 病棟に キヤンドル揺らぐ 聖夜かな
- 雪竹 澄子さん
- 江口 八重子さん
- 江口 信義さん
- 古賀 豊さん

川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）

- 同病と 一期一会の 四人部屋
- 歩きより マジックハンドの 技冴える
- 患者よぶ いそぐナースの 足の音
- 名で呼んで おじいちゃんとか 呼ばないで
- 中尾 和子さん
- 前田千代子さん
- 本村 喜代さん
- 西川 東山さん



▲院内学級の児童生徒による作品